

<金標準、円安の恩恵が消え、週足は戻り売り相場へ・・・>



(出所：オアシス)

トランプ元大統領の優位性がトランプラリーを引き起こし、トランプ元大統領の大統領就任確率が強まった事から世界的な不確実性の高まりや、財政赤字の拡大に、金標準先物は一時 12679 円まで買われている。しかし日銀金融政策決定会合を控え、国債買い上げ策の半減や利上げ観測が憶測として高まりを見せると、為替市場ではキャリートレードの巻き戻しで一時 151.94 円まで円高・ドル安を示すなど急ピッチでポジションの巻き戻しを行っている。

また NY 金も中国の需要が見られない事から史上最高値 2483.7 ドルから 7 日間で 2353.2 ドルまで下値を追うなど目先調整色を強めている。特に 31 日に日銀金融政策決定会合を控え、大幅な円安の動きは望めない情勢下であり、円建て価格である金標準先物は円安の恩恵が消えた事から戻り売り基調が強まり、12000 円で抵抗を受けると 11000 円へ向けた下値追いの値動きが続くと思われる。

<テクニカル>

金標準先物の週足の MACD では、MACD が下げながら、シグナルも切り下げている。RCI でも短期が下げながら、長期も下げだすなどオシレーターは弱気を示唆していると思える。特に日足が 10 日移動平均線を下回っており、40 日移動平均線に向けた下値追いに思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 1,530,000 円(2024 年 7 月 29 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 71,280 円(2024 年 7 月 29 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>